

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間のもつ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なコトでお悩みの方も是非一読されてみてください。

健康新聞

発行所
発行人

新健康協会

〒813-0001

福岡市東区唐原 6-7-1

TEL:092-661-1531

<https://shinkenko.jp>



次の御論文は明主様が、昭和二十三年に発表されたものであります。
世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

幸福

古往今来、いかなる人間といえども幸福を冀わぬ者はあるまい。幸福こそ実に人間最初にして最後の目標であるからである。幸福を得んがための学問であり、修養であり、努力であるにかかわらず、満足につかみ得る者は果たして幾人あるであろうか。大部分は幸福を獲得せんと思いつつ、かえって不幸の境遇にあり、解決の喜びを遂げらるる事なくして不帰の客となるというのが、一般人の現実である。然らば幸福を得るという事は、そんなに難しいものであろうか。私は否と言いたいのである。そもそも幸福とは、病氣、貧乏、闘争、この三大問題の解決が基本である事は誰も知るところであるが、言うはやすく実現は

難く、大抵は諦めるの余儀なきに至るのである。一切は原因があつて結果がある。勿論幸福とても同様であるとすれば、その原因をまず知る事こそ問題解決の出発点であらねばならない。

従つてその原因に不明である以上、何程努力しても実現の可能性はないに決まつてゐる。然らばその原因とは何か、それを私は述べてみよう。昔から言うところの善因善果、悪因悪果とは実に千古を貫く真理である。この理を知つて他人を幸福にするために努力する事こそ、自分自身を幸福にする絶対的条件であらねばならない。

ところが世の中には、他人の不幸を顧みずして自分だけが幸福になろうとする人間があまりにも多い事である。一方に不幸の種を蒔きつつ幸福の実を得ようとするのであるから、全く愚かな話である。丁度水を押すと手前のほうへ流れ、引くと先へ流れるのと同様である。

宗教が人間にとっていかに必要であるかは、この点にあるのである。即ちキリスト教の愛といい、仏教の慈悲というのも、他人を幸福にする利他的観念を植え付けるの

が本義である。このような簡単な道理も人間はなかなか認識し難いものである。そこで神様や仏様は種々の教義を作り、心言行の規準を示し、見えざるものの存在を教え、取次者をして誠心誠意信仰に導くのであるが、一人の人間を救うにも容易なものではないのである。それも無理はない。一般人は見えないものは信じないという教育のもとに唯物思想に固まつてゐるので、なかなか耳を傾けようとはしないのであつて、迷夢に鎖され暗黒の中を彷徨い苦しみながら、結局帰らぬ旅路へ赴くのであるから、誠に儚い人生というべきである。

然るに、生あるうちに歓喜に浸り、法悦の境地に住し、長寿を得、真の幸福者たり得る方法がありとすれば、正にこの世は天国であり、生き甲斐があるというべきである。しかしながら言うであらう。このような苦の娑婆にいて、そんな幸福者たり得るはずがないと諦めている人が一般人の考えであらう。しかし、我等は断言する。右のごとき幸福者たり得る秘訣のある事で、それを御伝授する手びきとして、まずこの雑誌を提供するのである。

浄霊体験記

- 一枚の健康新聞が私を救ってくれる…
- 治らなかったゼンソク 浄霊で良くなる
- ダウン症の可能性と言われたが…
- 浄霊いただき46年 命の継ぎ足しを…

浄霊によって真の健康体となり、運命が向上し、幸せになられた方々の体験でございます。

一枚の健康新聞が私を救ってくれる…

総本部
中村光宏（48）



私が新健康協会にご縁をいただいたきっかけは、私自身の病気でした。私がまだ生後四カ月の頃、扇風機に長時間あたり過ぎてカゼを引き、それ以来毎日セキが出て、ミルクを吐いたりするようになったそうです。母は私を病院に連れて行き、それから五、六カ月間、飲み薬と手足に注射という治療の日々が続きましたが、症状が改善されることはなかったそうです。

ちょうどその当時、日刊紙で「大腿四頭筋拘縮症」という筋肉注射による問題が話題になりましたが、それはお尻に何本も注射を打った結果、歩行困難になってしまう子供たちが増えているという内容でした。それを読んだ母

は大きな不安を抱くようになったそうです。というのも、その時はすでに五十本以上の注射を打っていたからです。また、私は生後十カ月頃になっても自分で立ち上がったたり、つかまり立ちをすることも出来ず、足をくすぐったりしてみても何の反応も示さなかったそうです。

「このまま病院通いを続けてもいいものか…」と母が疑問を持つようになった昭和四十八年末頃、我が家のポストに「健康新聞」が入っていたそうです。母は健康新聞を読み、本当にこれで良くなるのだろうか…と迷ったのですが、それから二カ月後、思い切つて近くの戸畑出張所に行ったそうです。

母は出張所の責任者から、薬毒等いろいろなお話を聞いたそうですが、その話が今までの経過と一致しているものがあり、納得した母は、その日から毎日私を連れて浄霊を受けに行くようになりました。また、入会すると家でも浄霊が出来ること分かり、母はすぐにも若松支部で入会しました。その間も出張所へも通い続けました。すると私のセキはいつの間にか止まり、一歳二カ月になる頃にはヨチヨチ歩きを始め、それ以来、足に異常はなく、現在も私は健康に過ごしております。「もしあのまま注射を打ち続けていたら、足に障がいを残す結果になっていたかも知れない…」そう考えると普通に走ったり、歩いたり出来ていることが本当に有難く感謝の気持ちでいっぱいです。

鬱も完全に良くなる

二十歳頃のことです。私は精神的に落ち込み、人と接することが怖くなったり、人ごみにいると体が震えたりす

るようになっていき、鬱状態になって家に引きこもりがちになりました。一時は自分で病院に行ったり、カウンセリングに行ったりしていましたが良くなることはなく、母の勧めで再び支部で浄霊を受けるようになりました。鬱の状態も波があり、完全に元気になるまでには時間がかかったのですが、浄霊を受けるにつれて段々と気持ちが明るくなっていき、元気になっていきました。やはり浄霊しかないと思った私は、その後も浄霊を受けに行くと同時に、支部の掃除等もさせていただくようにもなりました。つらい時もありましたが、おかげ様で完全に良くなりました。これからも、一人でも多くの方に浄霊をお伝えしていきたいと思っています。明主様、誠に有難うございました。（福岡県福岡市）

治らなかったゼンソク 浄霊で良くなる

ネパール・カトマンズ支部
チャル・マヤ・スレスタ（67）



私は昔からゼンソク持ちで、ゼンソクがよく出ていました。またそのゼンソクのためでしょう、お腹が張ったり、目も痛かったりと様々な苦しみがあり

ありました。その上、腰まで痛むこともありました。

病院に行きゼンソクに効く薬をもらって飲んだりもしましたが、薬を飲んだ時だけ良くなり、その後はまたゼンソクが出るといいう状態を繰り返していました。私はこの先もずっとこの状態を繰り返さないといけないのだろうか：私はゼンソクによってこのまま死んでしまうのではないかと悩み、非常に落ちこんでいました。

そんな時、私の兄が「浄霊という方法があるから試してみたら？」と教えてくれました。しかし、私の家から支部までは片道一時間もかかる場所でしたので、最初私は躊躇しました。しかし、薬を飲んででもゼンソクが良くなる訳ではないし、何もしないまま辛い日々を過ごすのも嫌でしたので、まずは浄霊を試してみようと思い、カトマンズ支部まで行くことにしました。

初めて浄霊を受けた時、手をかざすだけでしたので、これで本当に良くなるのだろうかとも思いましたが、驚いたことに、浄霊を受けた後からゼンソクの回数が減ったのです。浄霊を数回受けただけでゼンソクの回数が減るなんて、本当にすごい！と感動しました。

感動した私は、その後も続けて浄霊を受けました。すると、日に日に状態は良くなっていき、おかげ様で今ではゼンソクはほとんど出ません。稀に出たとしても以前のような苦しさはありません。

私は明主様にご縁をいただき、浄霊によって救われました。あの時、本当に死んでしまうのではないかと悩んでいたことが嘘のようです。

明主様に感謝しても感謝しきれない気持ちです。この素晴らしい浄霊を多くの方に伝えていきたいです。

（ネパール・カトマンズ）

浄霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

新健康協会は

病気・貧乏・争いのない世界、人類の幸福を最大の目標とし、心身の健康と霊性の向上を目指した「浄霊法」と「自然農法」を実施、また「美術・芸術」による魂の向上に努めています。

本教の教祖「明主様」は、昭和の初めより、幸福の原動力となる「浄霊」を確立され、特に病気や色々な悩みで苦しむ多くの人を癒し、幸福へと導かれました。

ダウン症の可能性 と言われたが：

高槻支部
阿武明日香（27）



私は、母が浄霊にご縁がありましたので、小さい頃から浄霊を受けて育ちました。しかし昨年、彼と同棲するのを機に熊本県荒尾市から大阪の高槻に引っ越し、仕事場から徒歩五分のところに高槻支部がありました。あまり支部に行っていませんでした。

昨年の春先、妊娠していることが分かりました。私はとても嬉しく、彼と一緒に喜んでいましたが、妊娠数カ月で、お腹の赤ちゃんがダウン症になっている可能性があると診断を受けました。私はショックで、どうしたら良いだろうかと悩みました。彼の方は心配して、赤ちゃんを堕ろした方が良いのでは…という感じでしたので、私もどうするか迷っていました。

私は、母に電話し相談しました。すると「明主様にしっかりお継りさせていただき、浄霊を受けたら」と言われ、私はそれから高槻支部にも浄霊を受けに行くようになりました。この時、母も荒尾の支部で御守護のお願いをし

てくれていました。その後、母も「流産することもなく元気にお腹の赤ちゃんが大きくなってきているということ」は、赤ちゃんも産まれたいんだよ」と言ってくれたので、私も命の尊さや母親としての自覚を強く再認識することが出来ました。私は泣きながら「赤ちゃんを産む！」と決意し、その後もしっかりと浄霊を受けました。

有難い命をいただけた

それからしばらくして検診を受けると、今度は「赤ちゃんには何も問題がない」と言われました。私はとても嬉しく、心から喜びました。十月には出産のために荒尾に帰ってきたのですが、そこでの検診でも、「異常なし」という結果で、感謝しかありませんでした。

荒尾に帰ってきてからも、荒尾支部でよく浄霊を受けました。

そして十一月十九日、おかげ様で元気な男の子を産むことが出来ました。私も息子も健康な状態で、全く問題はありませんでした。無事に産まれてきてくれた時、本当に嬉しかったです。ダウン症と言われた時に堕ろしていたら、この子と出逢うことはありませんでした。本当に有難い命をいただきました。私はこの感動をいつまでも忘れることはありません。

明主様、誠に有難うございました。

（大阪府高槻市）



浄霊いただき46年 命の継ぎ足しを：

大牟田支部
K・K（82）

私は、明主様にご縁をいただいで四十六年が経ちます。日々恙なく過ごせていることは、本当に有難く、感謝で一杯です。昨年無事八十二歳を迎えることが出来たのも明主様のおかげです。

思い出しますと、若い頃は病気でよく医療にかかっていました。当時は胃薬を良く飲んでいたので、その内に胃潰瘍になり、注射をするために病院へ毎日通い、一カ月間、左手、右手の甲に針が入らなくなる程に注射を打ち続けたこともありました。

また、頻繁に風邪を引き、薬を飲んで湿疹が出ていました。ある時、手の甲に赤く大きな円形の湿疹が出たのですが、皮膚科から「これは薬疹です。あなたはピリン系の薬（ピラゾロン系解熱鎮痛剤）は使用しない方がいい」と言われました。歯科でも、抜歯した際に麻酔が効かず、不思議がられました。結婚後、妻の母親が若い頃から病弱で、医薬からいろいろな信仰まで、様々なものに縋りましたが良くなりませんでした。そんな時、明主様（新健康協会）にご縁をいただき、浄霊を受けるようになってから元氣になりました。その姿を見た私は、浄霊の良さを感じ、夫婦で入会させていただき、健康増進法なのだ」という体験を重ねました。

仕事現役時代、坐骨神経痛でたまらなかつた激痛も浄霊で良くしていただき、その後再発することもなく過ごせています。

職場のレクレーションでバレエポールをしている時に、左のアキレス腱が切れたことがありましたが、過去の健康新聞にアキレス腱が浄霊で良くなったという記事を見たことがあったので、安心して浄霊を受けることが出来、四十日程で良くなりました。アキレス腱が切れた時、ものすごく大きな音がして、観客席にいた人まで驚いていたそうです。自分自身は何が起こったのか分からない状態でしたが、アキレス腱の部分が凹んでしまっていること、足を動かそうとしても動かなかったのでアキレス腱を負傷していることが分かりました。その後病院に運ばれ診察すると、「手術をしないと治らない」と言われました。しかし、私は浄霊で良くなりました。しかし、私は浄霊で良くなりました。しかし、私は浄霊で良くなりました。

たので、妻に病院まで迎えに来てもらい、自宅で毎日浄霊を受けました。それから二週間後、職場に診断書を提出するために、別の病院で診察を受けたところ、「これは半分切れていますね」と言われました。最初の病院では、手術しないと治らないと言われる程ひどい状態だったので、既に半分繋がっていることが分かり、浄霊の素晴らしさを感じました。驚いたことに、アキレス腱が繋がる時に、音がすることも分かりました。

おかげ様で足も丈夫にしていたので、退職まで勤めることが出来、退職後も八十歳まで地域で体操教室の指導をしていました。

二年程前になりますが、物が二重に見えたり、頭がフラついたりした時がありました。その時も毎日よく浄霊を受けていると徐々に良くなり、老眼鏡

も要らない程、良くしていただきました。

支部や自宅で毎日浄霊を受けたおかげで、長年命を継ぎ足していただき、働くことも出来ました。今でも自分で自分のことが出来るので大変嬉しい気持ちです。命も健康も日々のことも、何一つ当たり前のことではないと感慨深く思っています。

世の中の多くの皆さんが、浄霊を受けてほしいと願っています。

（福岡県大牟田市）

浄化作用ってどういうこと？

人間には体内の毒素を排除して健康を促進しようとする働きがあります。

例えば、カゼの場合、蓄積してきた不純物や体外から入ってきた毒素を浄化するために熱や痛みが出ます。そして、その結果ハナやタンなどが出て体の中が掃除され、霊・体共に清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。ですから浄化作用は、体の不調和を調和させる大切な清掃作用でもあるのです。

芸術を楽しむ理由

美の殿堂へ

5
vol.聖地に美の世界をつくる
新健康協会が伝えたい
芸術鑑賞のススメと
楽しみ方について

「晴明会館」は、教祖・明主様（岡田茂吉師）を信仰する新健康協会の聖地に「美の世界」を実現する信念のもと、1987年（昭和62年）に建設されました。

当館には多数の洋画も収蔵しております。

目玉作品は、「井上三綱」による「古事記」。

世界が注目した小田原の画家は、「日本人としてどのような洋画を描くべきか」を考え、西洋の技法とともに、古代絵画、能古典文学、和歌、禅、宗教など、東洋の芸術への思索を重ねました。胡粉や岩絵具などの日本画の画材を使う独自の作風は、アメリカ人評論家をはじめ、海外でも高く評価されています。

また当館には、井上三綱が影響を強く受けた同郷の大家、坂本繁二郎や青木繁の作品も収蔵しております。クラシックな方法でモダンな美を表現した大作には、日本文化に学び、咀嚼しながら、新しいものを創り出すことを追求し続けた芸術家たちの強い意志が込められています。

日本の伝統的な芸術の素晴らしさを伝え、拝観された方々に感動や共感をもたらすことのできる美の殿堂を目指してまいります。

手に入れたのは

健康な心と

健康な体

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにすることができます。

とみながちようどう
富永朝堂《干魚》
ほしぎかな

本物の煮干しかと見紛うほどそっくりなこの《干魚》は、木でつくられた彫刻作品です。水気が抜けてやや屈曲した腹部、触ると崩れてしまいうそうに乾燥した尾鰭や口元、光る背や目の縁など、見れば見るほど、ああ干魚つてこうだな、という姿をしています。本作は福岡出身の彫刻家、富永朝堂によるものです。

朝堂は明治三十（一八九七）年、櫛田神社にほど近い赤間町で家具の製造販売を行う指物屋の家に生まれました。職人技と商いを肌身に感じ

つつ育ち、画塾にも通った朝堂は、彫刻家を志すようになり十七歳の時に家を出ます。上京して山崎朝雲に師事し、九年間の修行生活を送りました。ちなみに朝雲も福岡出身の彫刻家です。独立後も順調に活動しますが、昭和十九（一九四四）年、戦禍を逃れて帰郷し太宰府に転居。以降、昭和六十二（一九八七）年に

九十歳で亡くなるまでこの地で過ごしました。

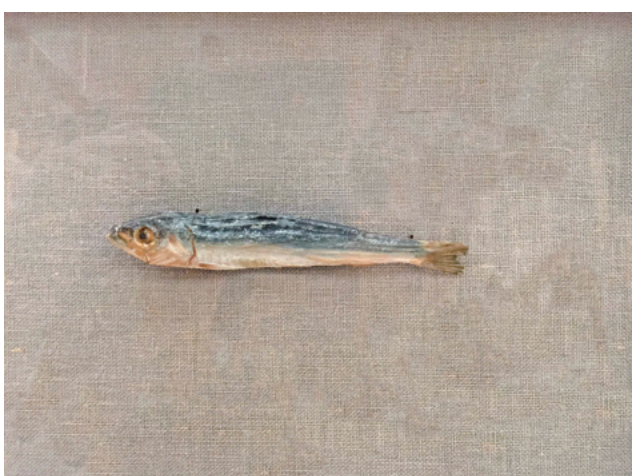
彫刻家としてのスタイルは、本人も「写真、理想、象徴、抽象、新具象と変化してきた」と振り返っている通りですが、なにより「内容」や「魂」といった、造形物を芸術たらしめる精神的な要素を重視しました。ただ本作を見ると、それを支える技術の部分にも大きな魅力があると感じざるを得ません。

迫真的な干魚のシリーズは、鯛やアゴ（飛魚）など色々とつくられており、戦後間もない頃でも高値で売れたそうです。生活を支える腕という意味合いで「ばくにとつて鯛は鍋干さずだよ」と良く言っていたとも。酒屋の主人に喜ばれ、好きなだけの焼酎と交換できたエピソードもあります。弟子には「こんなものはすぐに彫れるようになるよ」と伝えますが、いざやってみると朝堂の、木彫の基本たるノミの研ぎの秀逸さに気付かされたようです。

実家で木材とその道具に触れていたことも、近代的な写実を先駆けた朝雲に師事したことも、こうした作品を可能にしたといえますが、本物そっくりにつくるのに相応しい題材を選択する観察眼も評価すべきことではないでしょうか。木肌と遠く離れたものを手品のように再現して、

イリュージョンで惑わせるのではなく、生活の中の小さなものに目を配って遊び心を披露する余裕が、嫌味のない清々しさを醸し出しているように思います。

解説 松田愛子



晴明会館

「背景に九州」後期展
期間…1月7日（金）～5月18日（水）

※晴明会館お問い合わせ ☎092(661)1535

健康新聞についてのお問い合わせは
(092)661-1531まで